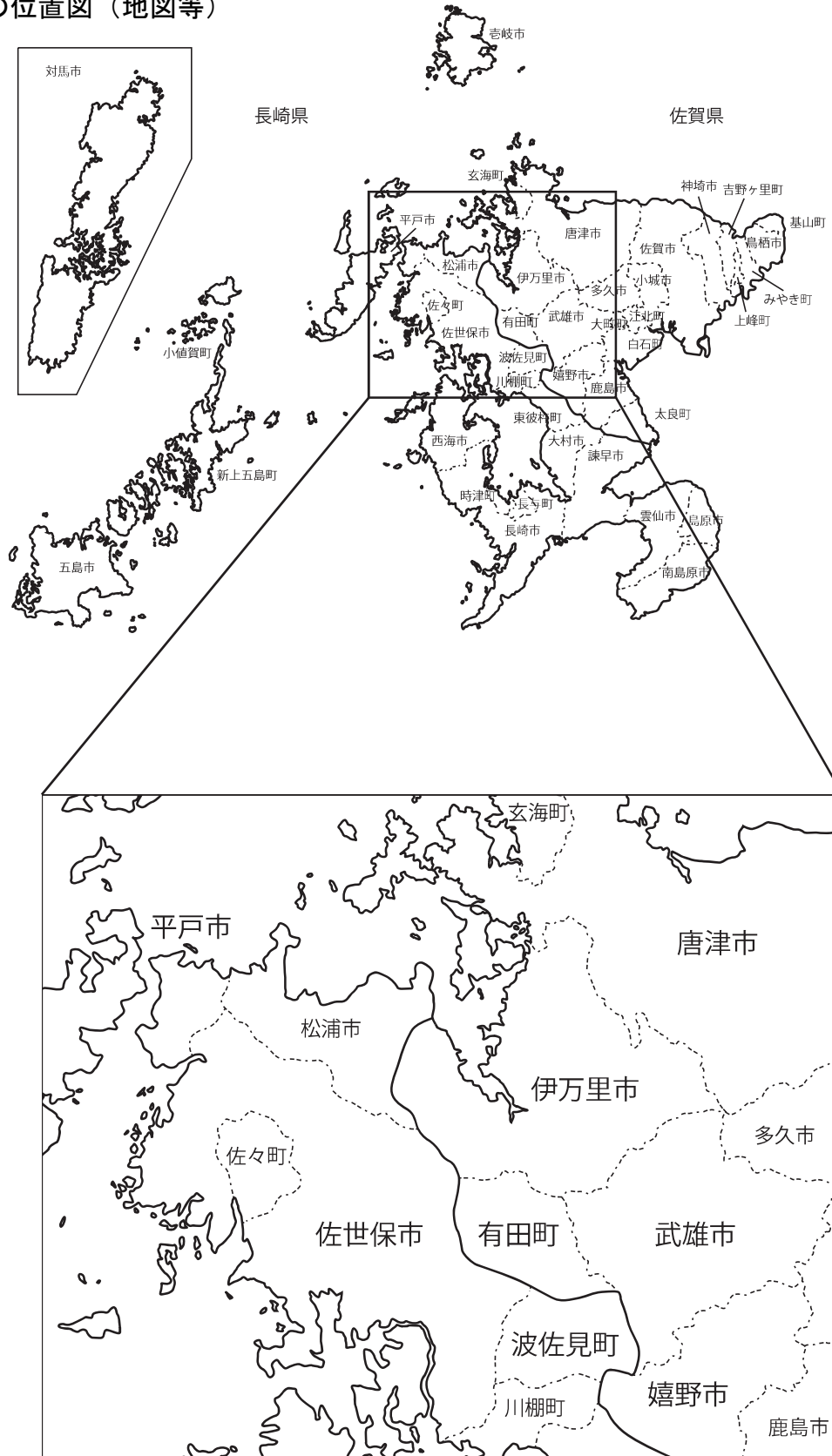


① 申請者	◎佐賀県、 (唐津市、伊万里市、武雄市、嬉野市、有田町) 長崎県 (佐世保市、平戸市、波佐見町)	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
【日本磁器のふるさと 肥前 ～百花繚乱のやきもの散歩～】			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
<p>陶石、燃料（山）、水（川）など窯業を営む条件が揃う自然豊かな九州北西部の地「肥前」で、陶器生産の技を活かし誕生した日本磁器。肥前の各産地では、互いに切磋琢磨しながら、個性際立つ独自の華を開かせていった。その製品は全国に流通し、我が国の暮らしの中に磁器を浸透させるとともに、海外からも賞賛された。</p> <p>今でも、その技術を受け継ぎ特色あるやきものが生み出される「肥前」。青空に向かってそびえる窯元の煙突やトンバイ塀は脈々と続く窯業の営みを物語る。この地は、歴史と伝統が培った技と美、景観を五感で感じることのできる磁器のふるさとである。</p>			
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名	佐賀県文化・スポーツ部 文化課 文化に親しむ風土づくり担当 白濱昌子、安永 浩		
電 話	(0952) 25-7236	FAX	(0952) 25-7179
E-mail	bunka@pref.saga.lg.jp		
住 所	佐賀県佐賀市城内一丁目1番59号		

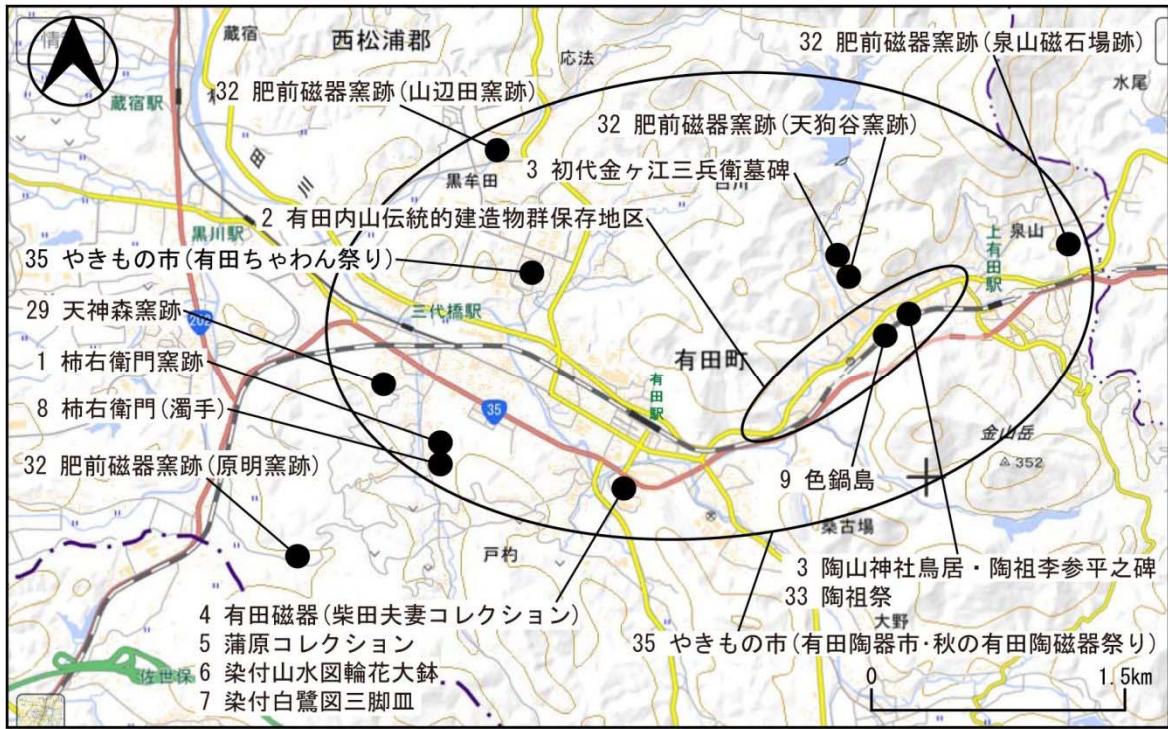
市町村の位置図（地図等）

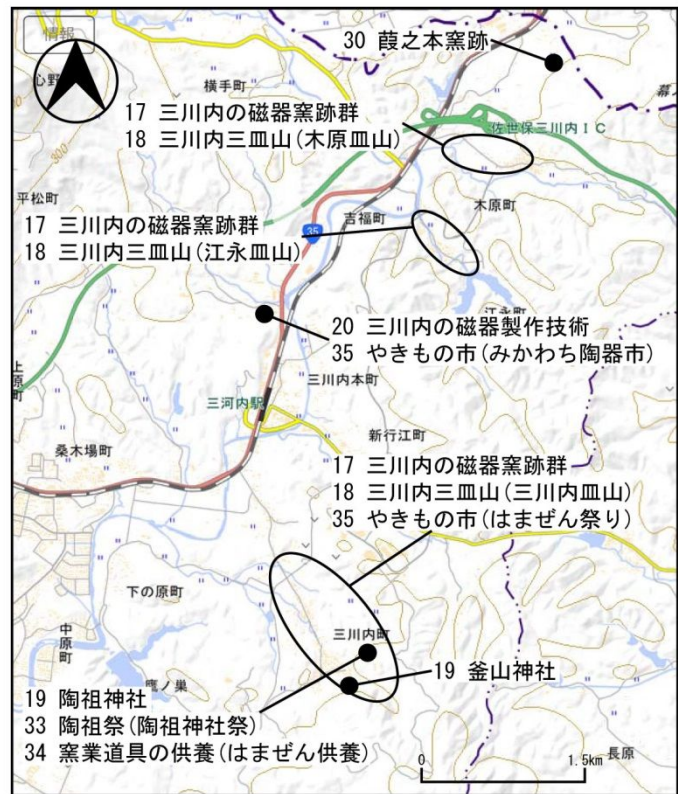


構成文化財の位置図（地図等）

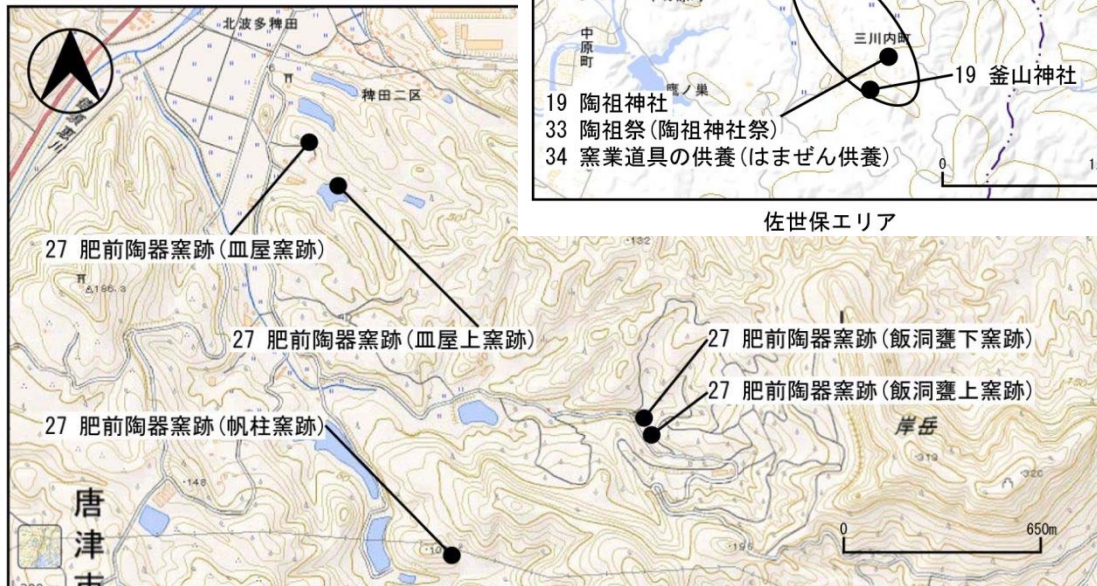


- | | |
|-----------------------------|-------------------|
| 10 : 大川内鍋島窯跡 | 32 : 肥前磁器窯跡 |
| 11 : 大川内山 | a : (百間窯跡) |
| 12 : 旧犬塚家住宅 伊万里津 | b : (不動山窯跡) |
| a : 旧犬塚家住宅 | 33 : 無縁塔祭 |
| b : 伊万里津 | 34 : 窯業道具の供養(筆供養) |
| 13 : 旧戸渡嶋神社灯籠・手水鉢(現伊萬里神社) | 35 : やきもの市 |
| 14 : 嬉野の磁器窯跡群 | a : (春の窯元市) |
| a : (吉田) | (鍋島藩窯秋祭り) |
| b : (志田) | b : (肥前吉田焼陶器まつり) |
| c : (不動山) | (吉田焼辰祭り窯元市) |
| 15 : 志田焼の里博物館(旧志田陶磁器株式会社工場) | c : (唐津やきもんまつり) |
| 27 : 肥前陶器窯跡(御茶盃窯跡) | (唐津焼秋の窯元ツーリズム) |
| 28 : 茅ノ谷 1 号窯跡 | d : (武雄の紅葉と窯跡巡り) |
| 31 : 中野窯跡 | |





佐世保エリア



北波多エリア



武雄エリア

ストーリー

◆肥前窯業の始まりと日本磁器生産の幕開け

16世紀末頃、九州北部の唐津市北波多周辺では陶器（唐津焼）の生産が行われていたが、そこへ「文禄・慶長の役（1592～1598）」の際に肥前の各大名が朝鮮半島から連れ帰った陶工の技術が加わり、伊万里・有田・武雄・三川内・波佐見など周辺各地へと産地が拡大した。そして1616年、朝鮮陶工の一人、金ヶ江三兵衛（李参平）が、磁器の材料となる良質の陶石を有田の泉山磁石場で発見し、日本の磁器生産が始まったとされる。こうして肥前の窯業は、日本のやきものの歴史に大きな一歩を踏み出した。

当時の日本において、白く光沢があり強度に優れた磁器の生産は、大きな技術革新であり、その白さは、色鮮やかで繊細な模様を描くことを可能にした。これにより、陶器や木製食器に加え、多彩な図柄が描かれた磁器を季節や料理にあわせて使い分けるなど、料理と器をともに楽しむ日本の食文化に新たな要素が加わることとなった。



泉山磁石場



連房式の登り窯(畑ノ原窯跡)

◆百花繚乱の産地形成

有田で芽吹いた磁器生産の技術は、各地での新たな陶石の発見を経て、三川内や波佐見、伊万里、嬉野でも発展し、これらの産地ではいわゆる肥前式と呼ばれる連房式の登り窯や共通の道具を使いながらも、それぞれの個性を際立たせるため、互いに技術を競いながら独自の華を開かせていく。

磁器発祥の地・有田では、当初は陶器と磁器を同じ窯で作っていたが、間もなく佐賀藩の主導により磁器専門の産地となり、乳白色の素地に余白を生かしつつ繊細な絵付けを施した柿右衛門様式や、金などの鮮やかな色を使った豪華絢爛な金襴手様式など、日本独自の色絵磁器が誕生した。

伊万里と三川内には、それぞれ佐賀藩、平戸藩が経営する御用窯が置かれ、将軍家への献上品など採算を度外視した最高級品が生産された。伊万里の大川内山では、精緻な線描きの染付による鍋島染付（藍鍋島）や、染付の藍に赤、緑、黄の三色の色絵を原則とする色鍋島、さらには釉薬を厚く掛けた深い青緑色の色調を特徴とする鍋島青磁などの鍋島焼が生み出された。また、平戸の中野から窯が移された三川内では、白磁をベースに繊細な彫刻で仕上げた技巧性の高い透かし彫りや卵の殻のように光にかざすと透けて見えるほど薄い卵殻手が作られた。

一方、巨大な登り窯により大量生産に成功した波佐見は、高価であった磁器を庶民の器へと変貌させた。このことは、江戸時代の日本各地の都市から農村に至る遺跡のほとんどで波佐見焼が出土していることからもうかがえる。

また、嬉野では、中国で作られていた磁器の図柄に似せた吉田焼の色絵や、



有田焼(柿右衛門様式)

《色絵花鳥文皿》

佐賀県立九州陶磁文化館所蔵



有田焼(金襴手様式)

《色絵赤玉雲龍文鉢》

佐賀県立九州陶磁文化館所蔵



鍋島焼(色鍋島)

《色絵鶺鴒文皿》

佐賀県立九州陶磁文化館所蔵



三川内焼

《染付三段重ね透彫紋入香炉》



波佐見焼

《くらわんか碗》



吉田焼

《色絵印判手仙境図大皿》

佐賀県立九州陶磁文化館所蔵



志田焼

《染付象唐子文輪花大皿》

佐賀県立九州陶磁文化館所蔵

オリーブ色が特徴の不動山の青磁、人物や動物を戯画的に表現した染付皿を中心とする志田焼が作られた。

こうした肥前磁器の製品は、主に伊万里津から積み出されて国内各地に流通し、その軽さや割れにくさといった使い勝手の良さから、わが国の暮らしの中に浸透していった。また、その一部は長崎を経由して東南アジアやヨーロッパなど海外にも輸出され、ヨーロッパの王侯貴族をも魅了し、マイセンなどの磁器生産にも大きな影響を与えた。

◆肥前窯業が育んだ景観と暮らし

400年にわたり紡がれてきた肥前窯業の歴史や文化は、地域の景観のなかに今なお息づいている。陶工の里である各地では、窯業の発展に欠かすことのできない陶石などの原料や水を提供してきた美しい山々を背景に、そのふもとに集落が連なり、古窯跡やレンガ造りの煙突、登り窯に用いたレンガや陶片を赤土に埋め込んだトンバイ塀が残り、橋の欄干など随所にやきものが使われている。

古い商家や洋館、多くの窯元の町屋が連なる趣深い町並みを残す有田の内山地区、山々に囲まれた水墨画のような幽玄な景観の中に窯元が建ち並ぶ伊万里の“秘窯の里”大川内山、代官所跡や運搬に使われた馬車道などに御用窯の栄華が偲ばれる三川内三皿山、世界最大の登り窯である大新登窯跡とともに山あいの窯元の家並みが残る波佐見の“陶郷”中尾山など、各産地ではそれぞれに近世から続く肥前窯業の悠久の息づかいが今なお感じられる。さらに、大正期から操業した嬉野の旧志田陶磁器株式会社工場や昭和初期に建てられた波佐見の旧福幸製陶所など、近代以降の窯業の営みを今に伝える建物も数多く見ることができる。

また、窯業は地域の暮らしにも深く根付いている。礎を築いた陶工たちを大切に祀る陶祖祭など、窯業に関わる伝統行事が各地で受け継がれているほか、料理を彩り引き立てる器を贅沢に使い、楽しみ、客をもてなす文化が育まれている。波佐見では、窯焚き職人が食していた「冷汁」が現在でも郷土料理として伝えられている。

◆歴史を刻み続けるやきものの里

肥前窯業の各地域では、現在でも窯業が地域産業の中核を担っており、互いに産地の特色を意識しながら技術の継承と向上に努めている。

100年以上の歴史を持つ有田陶器市をはじめ、伊万里、波佐見、唐津、佐世保（三川内）、嬉野、武雄の各地で開かれるやきもの市は、多くの人々が訪れる一大イベントとなっており、好みのやきものを求め散策しながら、作陶や絵付けも楽しむことができる。武雄の巨大な登り窯・飛龍窯や波佐見の畑ノ原窯跡の復元窯のほか、各窯元で行われる昔ながらの薪窯焚きは、伝統技術に触れることのできる貴重な機会となっている。

また、かつてヨーロッパに渡った肥前磁器の一部は、生産地である故郷に里帰りしており、海外進出の歴史を物語るコレクションとして佐賀県立九州陶磁文化館などで展示され、世界中からの来訪者の目を楽しませている。

この地は、400年もの長い窯業の歴史の中で培われた伝統や技術、景観や文化などの魅力を体感できる日本随一の地域である。



有田の裏通りなどに残るトンバイ塀



秘窯の里 大川内山



陶郷 中尾山



旧福幸製陶所



やきもの市(鍋島藩窯秋まつり)

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	柿右衛門窯跡 かきえもん	国史跡	有田の南川山にある 17 世紀後半に操業した連房式登り窯の磁器窯跡。後に続く南川原窯ノ辻窯とともに「柿右衛門様式」の優品を中心的に生産した。	佐賀県有田町
②	有田内山伝統的建造物群 保存地区 ありたちやま	国重要伝統的 建造物群保存 地区	白漆喰の伝統的な町屋や洋館など、江戸時代後期から昭和期の特徴的な建物が連なる有田町東部の地区。 有田の窯業の隆盛は、有田に裕福な町人文化を育て、中でも磁器生産の中心地であった内山地区には多くの窯元ややきもの商家が建ち並んだ。文政 11 年 (1828) に大火にみまわれたが間もなく復興され、近代になると洋風建築も加わった。	佐賀県有田町
③	初代金ヶ江三兵衛墓碑 陶山神社鳥居 陶祖李参平之碑 かねがえさんべ とうざん りさんべい	墓碑は有田町 史跡 鳥居は国登録 有形文化財 (建造物)	有田町内の墓地には、有田焼の陶祖とされる金ヶ江三兵衛 (李参平) の墓碑が残る。 また、陶祖を祀る陶山神社には、染付で全体に唐草文様が施された磁器製の鳥居 (明治 21 年 (1888) 奉納) があり、神社の山の中腹の有田町内が一望できる場所には、顕彰碑「陶祖李参平之碑」が有田焼創業 300 年を記念して大正 7 年 (1918) に造立されている。	佐賀県有田町
④	有田磁器 (柴田夫妻コレ クション) しばた	国登録有形文 化財 (美術工芸 品)	網羅的・体系的に収集された有田磁器のコレクション。柴田明彦・祐子夫妻から佐賀県立九州陶磁文化館に寄贈され、同館で常設展示されている。 点数は 10,311 点に及び、磁器生産の始まった江戸時代初期から幕末に至る有田磁器を中心に、その歴史的変遷がわかるように、様々な種類の作品が網羅的に揃っていることが大きな特徴である。	佐賀県有田町
⑤	蒲原コレクション かんばら	未指定	江戸時代にヨーロッパに輸出された、華やかで豪華絢爛な金襴手様式の作品を中心とする有田焼のコレクション。有田町出身の蒲原権氏がヨーロッパ各地で収集し、有田町に寄贈された。計 101 点。現在は佐賀県立九州陶磁文化館で常設展示されている。	佐賀県有田町

⑥	染付山水図輪花大鉢 <small>そめつけさんすいずりんか おおばち</small>	国重要文化財 (工芸品)	有田の山辺田窯で 1640～50 年代に作られた染付の優品。有田磁器の技術革新を示す名品とされる。佐賀県立九州陶磁文化館所蔵。	佐賀県有田町
⑦	染付白鷺図三脚皿 <small>そめつけしらさぎずさんきやくすら</small>	国重要文化財 (工芸品)	伊万里の大川内山に置かれた佐賀藩の御用窯で 1690～1710 年代に作られた鍋島焼(鍋島染付)の傑作。佐賀県立九州陶磁文化館所蔵。	佐賀県有田町
⑧	柿右衛門(濁手) <small>かきえもん (にごしで)</small>	国重要無形文化財 (工芸技術)	有田の陶工酒井田家では、正保 4 年(1647)に初代柿右衛門が赤絵(色絵)の焼成に成功し、17 世紀後半には濁手と呼ばれる乳白色の素地に余白をいかにして非対称の構図で上絵を配した「柿右衛門様式」を確立した。	佐賀県有田町
⑨	色鍋島	国重要無形文化財 (工芸技術)	伊万里の大川内山に置かれた佐賀藩の御用窯では、最高級材料与技術者によって鍋島焼と呼ばれる最高級品が生産された。中でも染付の藍に赤・緑・黄の色絵を施す色鍋島はその代表的な様式である。	佐賀県有田町
⑩	大川内鍋島窯跡 <small>おおかわち</small>	国史跡	佐賀藩が肥前磁器の製作技術を結集し 1660 年代頃に伊万里の大川内山に設置した藩営の御用窯跡。窯跡のほか、物原、御細工場跡、藩役宅跡、陶工屋敷跡群など古絵図にある遺構や地形が良好に残る。 ここで生産された磁器(鍋島焼)は、将軍家への献上や諸大名への贈答を目的とした最高級品であり、一般市場に出回ることにはなかったといわれる。	佐賀県伊万里市
⑪	大川内山 <small>おおかわちやま</small>	未指定	1660 年代頃に鍋島藩直営の御用窯が築かれた伊万里の大川内山地区では、現在も 30 の窯元が軒を連ねている。急峻な山々に囲まれた狭い谷間にトンバイ塀やレンガ造りの煙突、窯元が建ち並び、その背後に青螺山(せいろうさん)がそびえる山水画のような幽玄な風景は「秘窯の里」としての雰囲気醸し出している。	佐賀県伊万里市
⑫	旧犬塚家住宅 伊万里津 <small>いぬづか</small>	住宅は伊万里市有形文化財	文政 8 年(1825)に伊万里津に建てられたやきもの商家の旧宅を修理復元したもの。伊万里津はやきものの積出港として栄え、千軒在所といわれるほど数多くの白壁土蔵造の商家が建ち並んでいた。 現在、この建物は「伊万里市陶器商家資料館」として、かつての伊万里津の賑わいや商いの様子を伝えている。	佐賀県伊万里市
⑬	旧戸渡嶋神社灯籠・手水鉢 <small>ととしま とうろう ちょうずばち</small>	未指定	文化 11 年(1814)に海上安全守護のためやきものの積出港として栄えた伊万里津の戸渡嶋神社に寄進された灯籠と手水鉢。	佐賀県伊万里市

	(現伊萬里神社)		<p>石灯籠は筑前商人関係者から、手水鉢は紀州商人からの寄進で、伊万里津を拠点としたやきものの流通に全国各地の商人が深く関わっていたことを示している。</p> <p>なお、戸渡嶋神社は現在、伊萬里神社に合祀されている。</p>	
⑭	うれしの 嬉野の磁器窯跡群	一部国史跡	<p>17 世紀以降の嬉野市内の吉田や志田、不動山で営まれた磁器窯跡群で、いずれも連房式の登り窯である。</p> <p>17 世紀から操業した吉田焼の窯では中国の呉須赤絵に似せた色絵磁器を生産し、一部は東南アジアにも輸出された。1700 年頃から始まった志田焼は、幕末には 5 基の連房式登り窯によって染付を中心とした皿類が大量に生産された。不動山の窯跡は確認されているだけで 5 基を数え、17 世紀後半に芙蓉手の染付皿や青磁製品などが焼成された。</p>	佐賀県嬉野市
⑮	しだ 志田焼の里博物館 (旧志田陶磁器株式会社工場)	未指定	<p>嬉野で大正期から昭和 50 年代まで操業した志田陶磁器株式会社の工場。陶土製造から焼成までのすべての工程を大規模に行っていた。志田は波佐見と同様に庶民向けの器の大量生産供給地であり、工場跡には国内最大級の石炭窯も残る。</p> <p>現在は「志田焼の里博物館」となっており、原料加工から焼成までの作業工程など往時の姿を見ることができる。</p>	佐賀県嬉野市
⑯	ひりゅう 飛龍窯	未指定	<p>陶器(唐津焼)の一大産地であった武雄市黒牟田地区に陶芸の里武雄の拠点として作られた、世界一の容積を誇る連房式の登り窯。飛龍窯のある竹古場キルンの森公園内には、利用可能な登り窯「向窯」もあり工房ではくろや楽焼体験ができ、陶芸教室も行われている。毎年 2 月には、数千本の灯ろうを一斉に点灯させる「TAKEO・世界一飛龍窯灯ろう祭り」が開催される。</p>	佐賀県武雄市
⑰	みかわち 三川内の磁器窯跡群	未指定	<p>平戸藩では、寛永 10 年(1633)に針尾島(佐世保市)で磁石場が発見されると、長葉山窯で初めて磁器の生産が行われた。慶安 3 年(1650)には中野窯の陶工たちを三川内皿山に移し、藩営の御用窯の体制を強化した。17 世紀後半から稼働した御用窯の三川内東窯跡、三川内西窯跡は連房式登り窯で、その操業は昭和期まで続いた。また、江永皿山、木原皿山でも民窯で磁器の生産が行われた。現在でもそれ</p>	長崎県佐世保市

			らの痕跡が残されている。	
⑱	三川内三皿山 <small>みかわちさんさらやま</small>	未指定	<p>三川内焼の産地であった三川内、江永、木原の三地区の皿山。窯跡やトンバイ塀、レンガ造りの煙突のほか、古い家並みや昔ながらの道筋が残り、現在でも窯元が建ち並ぶ。</p> <p>中でもその中心である三川内皿山には、平戸藩の御用窯であった東窯・西窯跡のほか、その優れた技術を伝承するために明治期に開設された三川内陶磁器意匠伝習所跡や、昭和期に操業した今由製陶所窯跡などが残る。</p>	長崎県佐世保市
⑲	陶祖神社 釜山神社 <small>とうそ かまやま</small>	未指定	<p>三川内焼の発展に貢献した先人を敬い祀る神社。陶祖神社には平戸藩御用窯二代目の今村弥治兵衛（如猿）が、天満宮内の釜山神社には伊万里から陶工たちを連れて移って来たといわれる三川内の陶祖の一人、高麗姫（中里エイ）が祀られている。</p>	長崎県佐世保市
⑳	三川内の磁器製作技術 <small>みかわち</small>	一部は佐世保市無形文化財	<p>三川内の平戸藩御用窯で高級品を生産するため培われた技術。現在も三川内の窯元に受け継がれ、様々な製品が生み出されている。</p> <p>竹篋等で切り取り格子や花卉の模様など細かな装飾を作り出す透かし彫りや、卵の殻のように透けるほど薄く削る卵殻手（薄胎）は三川内を代表する技法である。このほか、菊花飾細工や捻り細工、置き上げなどの細工技術や器の内部に繊細な山水画を施した内山水絵技術、松に牡丹と戯れる唐子を配した図柄の染付技術など多様である。</p>	長崎県佐世保市
㉑	肥前波佐見陶磁器窯跡 <small>はつさみ</small>	国史跡	<p>波佐見で 16 世紀末から近代にかけて操業した窯跡。いずれも連房式の登り窯で、現在までに 36 基が確認されている。</p> <p>波佐見焼の窯の大きな特徴の一つが、大量生産を可能とした世界最大級の巨大な登り窯である。「くらわんか手」と呼ばれる簡素な磁器は江戸時代後期を中心に国内各地に流通し、高価だった磁器の大衆化に大きく貢献した。</p>	長崎県波佐見町
㉒	智恵治窯跡 <small>ちえぢ</small>	長崎県史跡	<p>また、明治期に開窯し改修を経ながら戦後まで操業した智恵治窯跡は、窯の天井部まで現存しており、伝統的な登り窯の構造を伝える貴重な窯跡である。</p>	長崎県波佐見町

②③	陶郷・中尾山	未指定	波佐見焼の産地として江戸時代初期から現代まで連綿と続く窯業集落。 世界最大級の登り窯跡や、明治期のやきもの卸商家である中尾山うつわ処赤井倉のほか、レンガ造りの煙突やトンバイ塀などが残り、現在でも窯元が操業を続けている。	長崎県波佐見町
②④	福重家住宅主屋・旧福幸製陶所	国登録有形文化財 (建造物)	波佐見で磁器を生産した福幸製陶所とその経営者である福重家の建物群で、いずれも昭和初期の築造。「福重家住宅主屋」及び「旧福幸製陶所事務所」・「旧福幸製陶所細工場」・「旧福幸製陶所絵書座」からなり、波佐見焼を代表する製陶工場の様相を伝えている。 現在、旧福幸製陶所の建物群はカフェや雑貨店として活用されている。	長崎県波佐見町
②⑤	波佐見の生地成形技術	未指定	波佐見における日用磁器の生地(素焼き前の器)を成形する技術。 江戸時代、波佐見では蹴轆轤による生地の成形技術を高度化させ、磁器の大量生産を可能とした。その技術を背景に、近代以降には鋳込み成形や機械轆轤成形など新たな技術を導入し、肥前における生地生産の中核として発展を遂げた。現在も肥前一帯に生地を供給し続け、肥前磁器生産の「裏方」的役割を担っている。	長崎県波佐見町
②⑥	冷汁	未指定	波佐見に伝わる伝統的な郷土料理で、キュウリなどの夏野菜を使った味噌ベースの汁を御飯の上にかけたもの。 窯に薪をくべ火力を調整する窯焚き職人たちが暑い夏場に好んで食したといわれる。	長崎県波佐見町
②⑦	肥前陶器窯跡	国史跡	16世紀末以降に陶器(唐津焼)を生産した窯跡群。 肥前の窯業の歴史は、1580年代頃に朝鮮半島の技術を導入した陶器(唐津焼)の窯が岸岳城(唐津市北波多)周辺にできたことで始まる。間もなく「文禄・慶長の役」での岸岳城主・波多氏の改易による陶工離散や、各大名が朝鮮半島から陶工らを連れ帰ったことにより、その生産地は肥前各地へと拡大した。窯跡はいずれも朝鮮半島の技術に由来する割竹式や連房式の登り窯である。	佐賀県唐津市、武雄市
②⑧	茅ノ谷1号窯跡	佐賀県史跡	肥前地域での陶器(唐津焼)の生産	佐賀県伊万里市
②⑨	天神森窯跡	未指定		佐賀県有田町
③⑩	葭之本窯跡	長崎県史跡		長崎県佐世保市

③①	中野窯跡	長崎県史跡	は、江戸時代以降も継承されていく一方で、その技術を母体として、この地で日本初の磁器の焼成が開始されることとなる。	長崎県平戸市
③②	肥前磁器窯跡	国史跡	17 世紀前半の磁器生産初期段階に操業した窯跡群及び泉山磁石場跡。窯跡はいずれも連房式登り窯である。 磁器は当初、陶器窯の中で陶器とともに焼成されたが、寛永 14 年 (1637) に佐賀藩が有田一帯の陶器窯を廃して窯場の整理・統合を行った。これを境に有田は磁器専門の産地へとシフトすることになった。	佐賀県有田町、武雄市、嬉野市
③③	陶祖祭 無縁塔祭	未指定	有田、波佐見、三川内の各地域では、それぞれの陶祖を敬い偲ぶ陶祖祭 (陶祖神社祭) が毎年 5 月に営まれている。また、伊万里の大川内山では毎年 4 月に、江戸時代の陶工たちを祀る供養塔で無縁塔祭が行われ、先人の偉業をたたえている。	佐賀県有田町、伊万里市 長崎県佐世保市、波佐見町
③④	窯業道具の供養	未指定	三川内では毎年 5 月にやきものの焼成に使う円盤型の使い捨ての台「はまぜん」の供養が、また伊万里では毎年 11 月にやきものの絵付けに使用する筆の供養が行われている。	佐賀県伊万里市 長崎県佐世保市
③⑤	やきものの市	未指定	肥前窯業の各産地で行われるやきものの市で、例年多くの来場客で賑わっている。 中でも有田町で毎年 4 月 29 日～5 月 5 日の一週間にわたって行われる有田陶器市は、明治 29 年 (1896) の有田五二会陶磁器品評会以来 100 年以上の歴史を有し、大正期から現在の陶磁器販売市の形が加わった。 ＜有田町＞有田陶器市 (4, 5 月)、秋の有田陶磁器祭り、有田ちゃわん祭り (11 月) ＜伊万里市＞春の窯元市 (4 月)、鍋島藩窯秋祭り (11 月) ＜嬉野市＞肥前吉田焼陶器まつり (4 月)、吉田焼辰祭り窯元市 (11 月) ＜唐津市＞唐津やきもんまつり (4, 5 月)、唐津焼秋の窯元ツーリズム (11 月) ＜武雄市＞武雄の紅葉と窯元巡り (10～11 月) ＜佐世保市＞はまぜん祭り (5 月)、みかわち陶器市 (10 月) ＜波佐見町＞波佐見陶器まつり (4, 5 月)、桜陶祭 (4 月)	佐賀県有田町、伊万里市、唐津市、武雄市 長崎県佐世保市、波佐見町

- (※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。
- (※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、県有形、市無形等）。
- (※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。
- (※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

構成文化財の写真一覧

①柿右衛門窯跡



③陶山神社鳥居



②有田内山伝統的建造物群保存地区



③陶祖李参平之碑



③初代金ヶ江三兵衛墓碑



④有田磁器 (柴田夫妻コレクション)



⑤蒲原コレクション



⑧柿右衛門 (濁手)



⑥染付山水図輪花大鉢



⑨色鍋島



⑦染付白鷺図三脚皿



⑩大川内鍋島窯跡



⑪大川内山



⑬旧戸渡嶋神社手水鉢（現伊萬里神社）



⑫旧犬塚家住宅（手前の建物）、伊万里津



⑭嬉野の磁器窯跡群
（上福 2 号窯跡）



⑬旧戸渡嶋神社灯籠（現伊萬里神社）



⑮志田焼の里博物館
（旧志田陶磁器株式会社工場）



⑬飛龍窯



⑭陶祖神社



⑮三川内の磁器窯跡群
(三川内東・西窯跡)



⑯釜山神社



⑰三川内三皿山
(三川内皿山)



⑱三川内の磁器製作技術
(透かし彫り)



撮影／大川裕弘

②⑩三川内の磁器製作技術
(卵殻手 (薄胎))



撮影／大川裕弘

②⑩三川内の磁器製作技術
(菊花飾細工)



撮影／大川裕弘

②⑩三川内の磁器製作技術
(唐子染付)

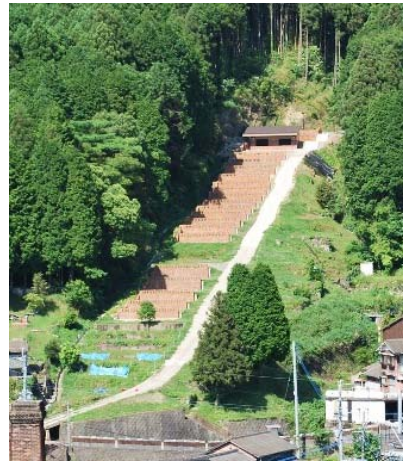


撮影／大川裕弘

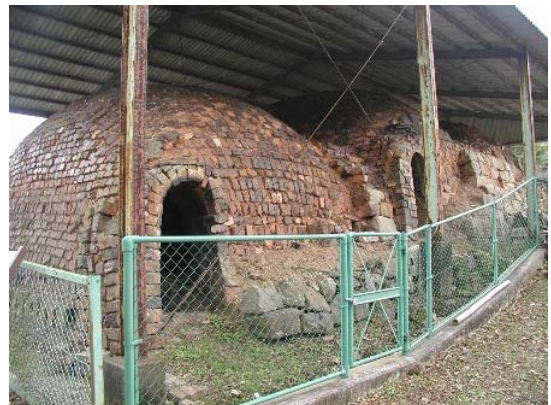
②⑪肥前波佐見陶磁器窯跡
(畑ノ原窯跡)



②⑪肥前波佐見陶磁器窯跡
(中尾上登窯跡)



②⑫智恵治窯跡



②③陶郷・中尾山



②⑤波佐見の生地成形技術



②④福重家住宅主屋



②⑥冷汁



②④旧福幸製陶所



②⑦肥前陶器窯跡
(御茶臼窯跡)



⑳茅ノ谷 1 号窯跡



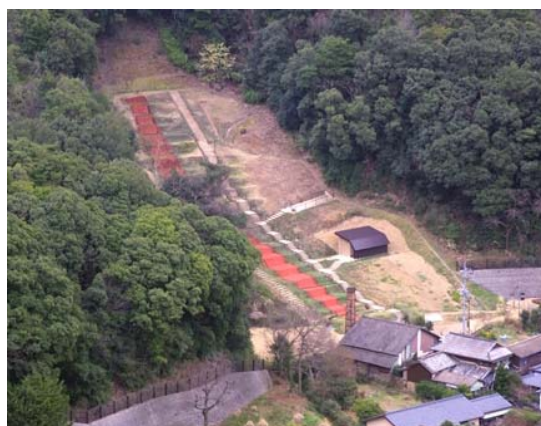
㉑中野窯跡



㉒天神森窯跡



㉓肥前磁器窯跡
(天狗谷窯跡)



㉔葎之本窯跡



㉕肥前磁器窯跡
(泉山磁石場跡)



③③陶祖祭
(波佐見町)



③④窯業道具の供養
(筆供養)



③③無縁塔祭



③⑤やきものの市
(有田陶器市)



③④窯業道具の供養
(はまぜん供養)



撮影／松尾宏也

③⑤やきものの市
(波佐見陶器まつり)

